

設楽の城砦めぐり

じょうさい

― 田峯城編(二) ―

だみねじょう



田峯城本曲輪

この城は戦国時代に奥三河で勢力を誇った山家三方衆の一つ、田峯菅沼氏の本城で知られている。文明二年（一四七〇）菅沼定信が築城したのが初めで、二代定忠は、永正年中に武節城を築城後、南進して新城平井の大谷に城を築き周辺を勢力下にした。

三代定広は今川氏に属し、大野と井代に築城して一族郎党に守らせた。

四代定継の時、今川氏から織田氏に通じたことから、一族が分裂内紛となり、定継は自刃して、弟の定直が居城した。今川義元が桶狭間で討死すると、定直は徳川氏に属し、定継の遺子定忠を後見することになる。

その後田峯城主となった定忠は、武田氏に属し天正三年（一五七五）長篠合戦で大敗し、武田勝頼と信州に逃れた。

その後定直の嫡子定利が遺跡を継いだが、定利は伊那郡代となって転出したことで、田峯城は廃城となった。

（愛知県文化財保護指導委員 加藤 博俊）